

## 政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成23年7月6日(水)・7日(木)・8日(金)
視 察 先	香川県土庄町豊島・直島町・岡山県玉野市
視 察 内 容	豊島産廃処理と環境センター有価金属リサイクル施設・斎場について
視 察 者	小野政明(2 日目から合流)、田口正夫、安形光征、梅村順一

### 7月6日 <豊島の産廃不法投棄問題について> 報告者:梅村順一

#### 1 土庄町の概要

人口は、1万7711人 世帯数は、6700世帯 面積74km<sup>2</sup>。瀬戸内海国立公園の東部に浮かぶ小豆島の西北部に位置し、東及び南に境を接する小豆島町とともに香川県に属する。気候は、四季を通じて温かな瀬戸内式気候であり、オリーブの木が我が国で唯一根付く地域である。



#### 2 豊島の概要

瀬戸内海の東部、小豆島の西 3.7kmの海上にある島であり、土庄町の一部である。『てしま』と読む。面積14. 5km<sup>2</sup>、人口は、1042人、世帯数562世帯、高齢化指数42%。中央部に壇山(340m)が最高点として6つの集落がある。豊島石の石材加工業が盛んであった。また農水産物の供給地である。古来から稲作が盛んで、豊かな地であったことから、豊島と名付けられたといわれる。また

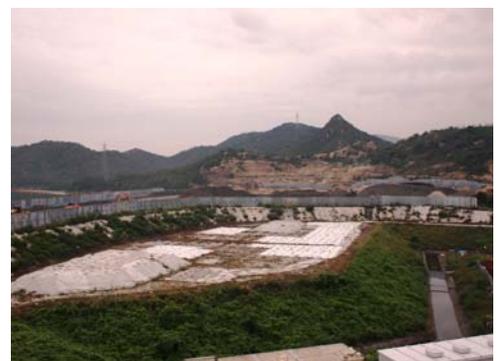


「福祉の島」と言われるゆえんは、我が国福祉会の草分けである「賀川豊彦」が力を入れた福祉施設「乳児院や特別養護老人ホーム、精神薄弱厚生施設」があることによる。

昭和50年代後半から不法投棄された国内最大級の産業廃棄物問題が、全国的な注目を集めたが、平成12年に県と住民の間に公害調停が最終合意され、10 年を目途に廃棄物の処理が進められており、これをばねにした新たな島づくりが動き出している。

#### 3 豊島問題の経緯について

昭和 50 年 12 月、豊島の西端にある国立公園内に、地元の事業者が産廃処分場を造る計画を立て、香川県に有害産廃処理の許可申請を提出。これをきっかけにして、豊島住民は、「産業廃棄物持ち込み絶対反対豊島住民会議」を結成して、先祖代々の豊かな自然に恵まれた豊島を守り、島の中に有害産業廃棄物を持ち込ませない運動を展開した。



その後香川県は、豊島住民に事業者の監視を約束し

て、無害な産廃に限る処理事業の許可を与えた。しかし、昭和 58 年ごろから事業者は、有害産廃を島内に持ち込み、やがて我が国最大級の産廃不法投棄事件に発展することとなる。

平成 2 年、産廃の不法投棄が兵庫県警に摘発され、豊島住民は、「廃棄物対策豊島会議」を再結

成して、産廃の撤去運動を継続して実施した。平成 12 年、ついに香川県との間に公害調停が成立し、廃棄物の撤去と不法投棄現場の原状回復をして、元の自然に戻すまでには、10 年以上の長い歳月がかかることとなる。そしてこれからは、豊かな豊島を実現させるための活動を同時に実行していくことが大きな課題である。

#### 4 高度排水処理施設について

産業廃棄物から染み出る汚水処理のために、豊島処分地の北海岸に遮水壁を設置して流出を防いでいる。地下水や浸出水は、ポンプでくみ上げ高度排水処理施設で浄化している。処理の対象となる汚水の水質は、鉛が基準の30倍、砒素は7倍、ダイオキシン類は80倍、BODは10倍、CODは330倍、窒素含有量は3倍となっている。そこでこの施設では、処



理済水の管理基準値を設定して、浄化したうえで北海岸から放流している。

処理のフローは、原水調整(揮発性有機化合物の処理)から、アルカリ凝集沈殿処理(浮遊物質の処理と重金属の処理)、生物処理(窒素と有機物の処理)、凝集膜ろ過処理(浮遊物処理、COD処理)、ダイオキシン類分解処理(滅菌とダイオキシン類処理)、活性炭吸着処理(COD処理)、キレート吸着処理(重金属の処理)、処理水放流(滅菌)としている。



#### 5 中間保管、梱包施設、特殊前処理物処理施設について

これらの施設は、掘削現場より運ばれた廃棄物を一時保管し、コンテナダンプトラックに積み込む施設になっている。ここでは、大きな岩石や金属、シート、ホース等の長尺物などを分別する前処理施設を併設して、効率的な廃棄物処理を実施。

#### 6 環境と安全への配慮

豊島の廃棄物処理事業は、香川県豊島に不法投棄された廃棄物と汚染された土壌を直島に輸送し、焼却と溶融方式によって処理している。また、その過程での副生物の再生利用を図ろうとするもので、環境面と安全面に十分な配慮をしている。

#### 7 循環の実現

この処理事業においては、先端技術を活用し、廃棄物を単に無害化するだけでなく、これまで埋め立てられていた副成物も可能な限り有効利用するなど、循環型社会のモデルとなるように努めてきた。



## 8 情報の公開

処理事業における運転状況や環境計測等の情報は、住民が容易に知りえることができるようにファイルにまとめ、パソコンの端末を設置して情報提供するほか、インターネットを通じて一般に公開するなど積極的な情報公開に努めている。

溶融スラグのサンプル



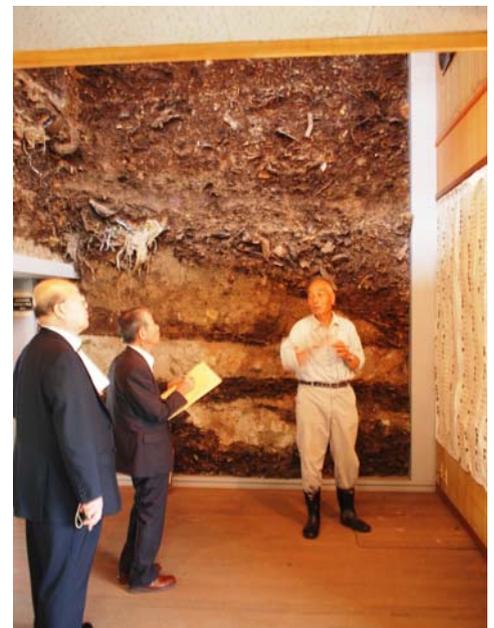
特殊前処理施設



### 【感想・岡崎市への反映】

本市における新東名高速道路の建設工事において、土壌からヒ素が確認されたことを受け、香川県の豊島産廃処理事業が最終段階を迎える中で、どのような土壌改善処理を実施するのかを含め、廃棄物処理の実態を視察研修することとした。

今回の視察の出発点はフェリー乗り場、豊島交流センターにて手続きを済ませると、豊島住民会議メンバーで、いちご農家の児島さんがワゴン車で案内を始めてくれた。ガイドの児島さんは、細身ながらも大柄な人懐っこい豊島住民。街中をぬけるとところに豊島開発事業者の廃屋があり、しばらく進むとオーブ畑の向こうに産業廃棄物処理場のゲートがある。「関係者以外立ち入り禁止」の立て札がある。児島さんは、「わしらも関係者じゃわい」と話しながら車を進めると、豊島開発事業者の現場事務所がある。ここが豊島産廃不法投棄現場の資料館だ。



ギンギンと音を立てながら引戸を開けて、迎え入れてくれた児島さんは、壁いっぱいの資料を説明し始めた。はじめに、産廃の剥ぎ取り壁面の展示がある。「ここに何があったのか」「ここで何が起こったのか」をあらゆる人に問いかけ続け、第2第3の豊島をつくらないため、ごみは豊島住民の資料館で、静かに語り続けている。私たちは、15分ほど児島さんの説明を受けていると、知らず知らずのうちに涙を流していた。行政と住民の谷間の中で、産業廃棄物を持ち込ませないとした戦いを、純朴な島民が進める苦闘を語っていただいた。住民の「かなわぬまでもせめて、一矢報いたい」との思いが伝わり、中坊公平弁護士をはじめ多くの弁護士が協力をした。

産廃の完全撤去と知事の謝罪を求めたが、住民はこの望みが叶うとは思えないままで行動が始ま

った。中坊弁護士は、「世の中は冷たい、だから情熱が必要だ。世の中、弱い者は泣くしかないが、真実と道理がある」と論された。

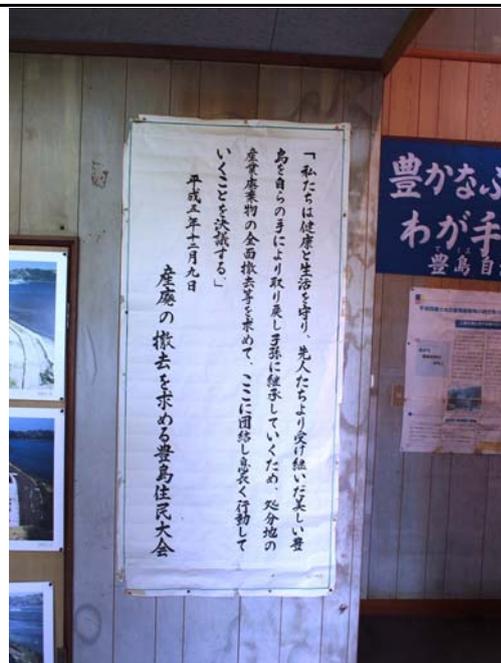
闘いが終わり住民は、県と町の主導で産廃資料館の建設をしようとした。その計画に対し中坊弁護士は、「行政依存の安易な考えで資料館をつくることは、人間廃棄物として世にさらけ出すことだ。学びの島として再生することは至難の業だ。人の心を揺り動かせるだけの情熱がなければできず、できたとしても誰も来ない島になろう。」と評し、大きな失望感を与えた。

廃棄物対策豊島住民会議の議長を務めた砂川三男さんが述べている。「今、豊島住民はこれからのことを決して忘れてはならないことを学んだ。心の資料館を身の丈に合った心のこもったものとして、島の再生と併せて進めなければ、事件や運動が過去のものとなり忘れ去られる。決して、忘れてはならないことである。」

「豊島の運動や闘いはどうしてできたのでしょうか。なぜ続けられてきたのでしょうか。人はどのようにして動くものなのか。社会を本当の意味で動かすものは、決してお金でもないしものでもない、心だと思う。心と心が通い合えばこそ、どんなことでも出来る。そういう人の心の共鳴が、豊島の住民のかかわりを育んだのだろう。豊島の人たちには、物の豊かさよりも心の豊かさをもって戦いを続けてほしいと思っている。」（「豊島・島の学校」の公演より）中坊先生の言葉が心に残りました。

今回の視察を通じて、住民と行政との在り方を見つめさせられた。現代の自由主義社会が生んだひずみを感じずにはいられない。現代の資本主義社会のあり様に対して、『果たしてそうだろうか』、『果たしてそれでよいのか』議会としても新たな視点で、住民の立場で判断をすることの大切さを痛感した。感銘を受けた視察研修となったことを付しておきたい。

政務調査費を活用し議員が自らの資質を高めるための視察研修をすることは、大きな意義があると感じている。私は、調査研究ができる機会をいただけるのなら、少しでも多くの先進事例を研究しておきたいと常々感じている。そして、その経験を生かし本市に反映することは、地元市議会議員として大切な役割であると同時に義務ではなからうか。



香川直島町

**1 直島町の概要** 人口:3259人 面積:14km<sup>2</sup>、直島町は、高松市の北方13km、岡山県玉野市の南方3kmに位置する。香川県の小豆島の西に豊島があり、その西側に直島がある。「直島(なおしま)」という地名は、保元の乱で敗れた崇徳天皇が讃岐へ配流される途中にこの島を訪れ、島民の純真素朴さを称して命名されたと伝わる。徳川時代には、幕府の天領となり海運業や製塩業の島として栄えた。大正6年三菱鉱業が設立され島は飛躍的な発展をする。平成元年ベネッセコーポレーションが直島文化村構想の一環で国際キャンプ場を設置。文化性の高い島として発展してきた。また、直島文楽をはじめ多くの貴重な文化財が残り、世界へ向けて現代美術の情報を発信するなど、文化の薫り高い町であるとともに、製錬所のある町として発展してきた。



**2 環境のまち宣言**

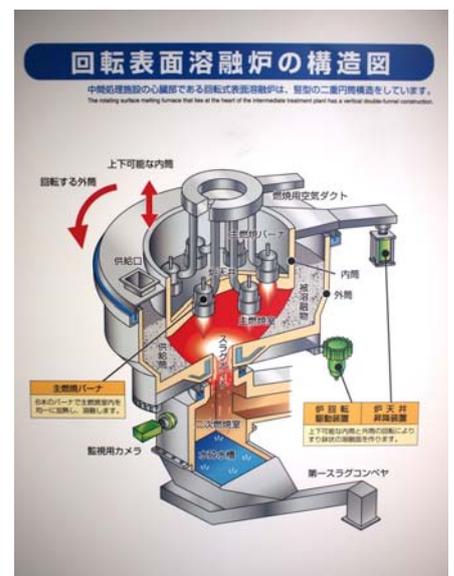
平成12年3月直島町議会は、県の提案を受け入れ、豊島廃棄物等中間処理施設の建設を契機として、循環型社会のモデル地域を目指す「エコアイランドなおしまプラン」が国の承認を得て進められた。全町民と全事業者との参加と協働により、このプランは積極的に推進され、町の魅力を高め大きく飛躍発展しようとしている。

**3 香川県直島環境センターについて**

公務として中間処理施設を行う施設であり、主な事業内容は、豊島産廃等の溶融処理を実施している。施設の概要は、「豊島問題」の経緯と具体的な処理工程をビデオ視聴をすることができる。廃棄物が豊島から直島へと輸送され、中間処理施設で溶融処理される工程を、実際のプラント見学と、模型を用いた説明により紹介をしている。見学可能な施設は、廃棄物等受入ピット、中央制御室、回転式表面溶融炉である。施設では、太陽光発電システムを導入し、副生物であるスラグをコンクリート骨材として再利用している。また、クローズドシステムにより排水を循環利用している。

**4 有価金属リサイクル施設の概要**

三菱マテリアル直島製錬所の施設である。自動車や廃家電等のシュレッダーダスト、廃基板、銅含有スラッジ等の廃棄物等を焼却溶融処理により可燃物や塩素等を除去する施設であり、焼却溶融後のスラグは銅精錬施設でリサイクル処理される。原料は受入ピットから、種別されてから返送コンベアでキルン溶融炉に投入される。原料は、1200度で焼却溶融処理され、算出したスラグ・メタルは、水で急速冷却してガラス状にして粉碎し、銅製錬設備に送られて処理される。



## 〔感想・岡崎市への反映〕

初めに大きな関心であったのは、豊島問題の産業廃棄物をどうして直島が受け入れをしたのかであった。豊島の住民は、豊かな自然を求め 10 年間の復元を約束させた。一方直島は、三菱マテリアル製錬所の恩恵も含め、長期にわたる雇用の継続を求めたことにあると感じた。

直島町

宮浦港から上陸した私たちは、近代建築と思われるようなおしゃれな海の駅「なおしま」から製錬所域のバスに乗り込んだ。工場エリアの為立ち入ることができず、事前に見学予約することで入場ができる施設へと向かった。守衛の許可を受け、初めに豊島からの産業廃棄物を搬入する港を横に見て、中間処理施設に到着した。漁業従事者への配慮から夏と冬の別ルートで産廃が搬入されることや、海上輸送船の構造について説明を受けた後に処理工程のビデオを視聴した。

中間処理施設での熔融処理は、本市のガス化熔融炉よりも厳重な体制が採用され、安全と環境への配慮が行き届いている。また、循環型社会の構築を先駆けて実施し、資源の有効活用が 8 年前に確立されていたことに驚きを感じた。こうした中間処理も、隣接する有価金属リサイクル施設があったからできたともいえる。今後日本を代表するエコアイランドの確立に期待を寄せたい。



## 7月8日 <斎場について> 報告者:梅村順一

### 1 玉野市の概要

岡山県玉野市

人口:67000 人、面積:103 km<sup>2</sup>、1940 年 8 月に日比町と宇野町が合併した際、日比町の中心であった「玉」と宇野町の「野」から命名。岡山県の南端にある、臨海都市。本州と四国を結ぶ宇高連絡船の発着した宇野港と造船所を中心に発展した。しかし、本州と四国を結ぶ架橋や宇高連絡船廃止に対応して新たな再開発が進む。24 時間運航のフェリー基地機能の強化と宇野駅前の立地を生かして、ウォーターフロント型のまちづくりを展開している。



### 2 施設の概要について

玉野市斎場。平成 22 年 9 月 1 日供用開始。構造鉄筋コンクリート造り、一部鉄骨構造。敷地面積 8301 m<sup>2</sup>。建築面積 1588 m<sup>2</sup>。事業費 8 億 5500 万円。大型炉 5 基、動物炉 1 基、汚物炉 1 基。待合室は、和室 2 室と洋室 2 室。駐車場 80 台。火葬件数 1 日当たり 6 件。開場時間 午前 9 時 30 分から午後 6 時 30 分。

### 3 施設の特徴

燃料を白灯油に変更(1遺体あたり約45%)※従前はA重油。火葬時間1遺体当たり1時間20分※従前よりも1時間程度短縮。廃棄処理は、強制排気設備があり煙突がない(除塵設備で廃棄を処理)。待合室において希望者は葬儀を行うこともできる。(1日2件)。なお、本誌では昭和48年から葬祭費無料制度を実施している。

### 4 利用状況と反応

＜斎場の使用状況＞

種別/年度	H 20年	H 21年	H 23年
遺体火葬	742	763	782
動物焼却	523	551	578
待合室利用	206	170	190
通夜	98	81	141
告別式	108	89	148
安置室使用	71	45	129

＜利用者の反応＞

待合室を利用した通夜と告別式に高い需要がある。利便性と快適性の向上については概ね評価は良好である。しかし、待合室ロビーの混雑について一部から苦情があった。



### 5 今後の課題

現状では、業務ごとに委託しているため委託体系が複雑である。今後効率的な業務の委託体制を検討していく必要があると考えている。

#### 【感想・岡崎市への反映】

玉野市 人口は5分の1、面積は4分の1程度の玉野市における斎場建設事業である。老朽化に伴う建て替えであり、限られた敷地内での建設は、本市と状況が似ている。最新式の斎場は、デザインも良く、新たな工夫が施されている。市民への最後のサービスとして、葬祭費無料制度に基づき使用料の減免は、支持すべき制度であり、その主旨は、通夜告別式の利用率向上に現れている。燃料の変更や環境への配慮も見逃せない。本市における斎場の改築工事が充実したものとなることを期待し、さらなる研究を進めていくことの必要性を感じた。